

創立昭和28年1月8日



TANABE ROTARY



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

District 2640 田辺ロータリークラブ Club Weekly Bulletin

2011-12年度
国際ロータリーテーマ

「こころの中を見つめよう
博愛を広げるために」
-Reach within to Embrace
Humanity-
カルヤン・パネルジ-
RI会長
大澤徳平ガバナー

4つのテスト (FOUR WAY TEST)

- 言行はこれに照らしてから
(1) 真実かどうか
(2) みんなに公平か
(3) 好意と友情を深めるか
(4) みんなのためになるかどうか

例会日 木曜日 12:30
例会場 紀伊田辺シティプラザホテル
会長 伊賀久記
幹事 福本雅彦
会報委員長 柏木壽夫
http://tanabe-rc.com/

承認 昭和28年3月2日
事務所 〒646-0031
田辺市湊1073-63
TEL 0739-24-2002
FAX 0739-26-0264
mail tanabe-rc@helen.ocn.ne.jp



「モン・サン・ミッシェル」
撮影 寺前則彦会員

- 司会者
伊賀久記会長
- ソング
それこそロータリー
- ゲスト
- ビジター

本日のプログラム 2/23

NPO法人会津スポーツクラブ
事務局長
菅井 繁実 様

次回のプログラム 3/1

ナギサビール株式会社
眞鍋 和也 様

出席報告

	第2906回	第2907回	第2908回
会員数	84名	84名	84名
出席規定免除会員数	9名	10名	10名
出席計算会員数	82名	81名	80名
出席者	70名	65名	64名
出席率	85.37%	81.25%	80.00%
メイクアップ	4名	5名	
修正出席率	90.24%	86.42%	

1月平均出席率 88.63%

お祝い

会員誕生日 長野、寺前
配偶者誕生日 三前安佐子(洋) 竹本せき子(達也)
瀬戸宏子(英男)

ニコニコ箱

☆池永さん、卓話ガンバッテネ！……伊賀、中松、濱口
福本雅、野村富、木村頼、稲田静、瀬戸、新藤、松本、中田
☆池永さん、新会員卓話頑張ってください！……
……都志見、長井、横田、新井、玉井、長井、浦出
☆池永さん、先日来何かとお世話になりどうも有り難う
ございました。本日の卓話楽しみにしています。頑
張ってください。……柏木
☆今日はしょうわ会楽しみにしています。……柴田
☆ロータリーゴルフ、7・8年振りに優勝しました。おそ
らくこれが最後でしょう。……畑地
☆ロータリーの友2月号の柳壇に10月投稿「生ビール、栓
を抜く音 瓶もいい」と読みます。……渡部

☆名前が変わりました。これからはメタボ483と呼んで
下さい。……中松
☆本日東北復興の為にグリーンジャンボ宝くじを買
いました。当たるといいなあ～！……福本雅
☆還暦の記念で家族旅行に行ってきた。フランス
の歴史を垣間見してきました。寒かったです。…寺前

お知らせ

会長報告

・本日ございません。

幹事報告

- ・2月月信(ガバナーズマンスリーレター)が地区HP
にアップされています。印刷を希望された方にお渡
ししています。
- ・再度、次年度のロータリー手帳の申し込み用紙を回
覧しますので希望される方は○印、不要の方は×印
を記入下さい。クラブ負担で購入します。
- ・近隣クラブの会報とJCニュースが届いていますので
回覧します。

委員会報告

しょうわ会

松本 哲しょうわ会会長

- ・本日、夜6時30分より海鮮問屋「丸長」にてしょうわ
会を行います。送迎バスは、JR紀伊田辺駅弁慶像前午
後6時出発です。時間の方間違えないよう、又参
加に変更の方お見えでしたらお申し出お願いします。

親睦活動委員会

松本 哲副委員長

- ・再度4月8日開催の地区大会の出欠表を回覧致します。
バスのご利用の方も合わせてご記入お願いします。



新会員卓話

『私の海外体験談』

池永 康則会員

私は、生まれは大阪ですが、3歳頃より高校を卒業するまでを有田市箕島で育ちました。皆さんもご存知のように、有田市は南北両側を山に挟まれた有田川流域にある狭い町で、昔から平地が少ないために、米作りより山の斜面を利用したみかん栽培や、除虫菊を栽培して蚊取り線香を製造したり、河口の海岸部では漁業が盛んな町でした。それ以外には、江戸時代に九州の伊万里焼を江戸にて販売する陶器商を営むものも何軒かあり、紀州有田の陶器商人として名を知られていたようです。当時は、紀州藩の庇護のもと葵のご紋のお陰で、諸藩の江戸藩邸や商家などに出入りして結構いい商売であったようです。私の先祖も明治になるまで何代かに亘り、この陶器商人を生業としておりましたので、私も祖父や祖母から当時の話を聞いて育ちました。

当時は、海路、瀬戸内海を利用して伊万里に行き陶器を仕入れて、また海路、瀬戸内海、紀伊水道を通り、沿岸部に沿って江戸に行き、陶器を売り捌いて、また戻って伊万里に行くといったことを繰り返して商売をしておりました。ですから、私の先祖の中には、伊万里に移り住んでしまった方もいます。

こうしたことからか、私もいつしかこの町を出て、海の向こうに行きたいという思いを抱くようになりました。大学2年のとき、同じ下宿の神戸市外大のものが、夏休みを利用してアメリカに一人旅してきたことにも刺激され、また丁度、アメリカに住む母の友人が遊びにおいでと誘ってくれたのに甘えて、冬休みを利用して一人で行くことになりました。

30年以上も前に、英語もしゃべれないものが、飛行機に乗るのも初めてで、しかもハワイ経由で乗り継ぎながらネブラスカの田舎町に行くのですから、本当

にたいへんでした。まずハワイから乗ったロス行きの飛行機がロスに降りられず、サンディエゴ付近の空港に降り、そこからバスでロスに向かうという洗礼をさっそく浴び、不安な気持ちで辞書を片手にアメリカ人に助けられながらコロラド州デンバー経由でネブラスカ州リンカーン空港にたどり着き、平井さんご夫婦に迎えられたときは本当に嬉しかったのを今も覚えております。とにかく、アメリカの広さと大らかさと、そして豊かさを実感し、益々海外への憧れる気持ちを強め、いつかきっとアメリカに住んで、仕事をしたいと思うようになりました。きっと、最初に訪れた町が、アメリカ中部の田舎町で田舎育ちの私には抵抗無く、すばらしいところに思えたのもあったのでしょう。

このため、翌年、友人二人と再度、アメリカに行くことになり、この時は、大陸を横断して東海岸のボストンまで行き、アメリカの広さを体感すると共に、アメリカの黒人街に迷い込み、貧富の差も激しい現実も見て衝撃を受けたことも覚えています。

そして大学を出て、シャープに入社して2年目、ロサンゼルス五輪の年にOEM先での品質問題対応のため、初めて海外出張に行く機会に恵まれ、西海岸北部のオレゴンの美しい自然を満喫し、窮屈なホテル(Holiday Inn)住まいにもかかわらず、また来るぞと自分に言い聞かせて帰国しました。

それから、ゼロックス社向け、テクトロニクス社向けOEM商品を担当していたため、毎日のように英語に触れながら仕事をし、また社内の英会話教室にも通ったりしながら、海外勤務の希望を毎年出しておりましたが、技術屋さんが海外に赴任することは少なく、望み叶わず奈良工場(大和郡山)で悶々としておりました。

そうしたところ、OEM商品よりシャープブランドに力を入れる流れになり、サンプル機をハンドキャリーして、海外販社を回るようなことになりました。技術が分かって、英語が少しできるということで白羽の矢が立ったようです。しかし、これは、結構たいへんな仕事でした。当時のサンプル機は、重さが約30キロ、これが木枠梱包に入っているのをハンドキャリーせよと言われ、しかも、プリンターだけでなくカラーキャナーのサンプルも、そして当然、自分のトランクも持って行くのですから、空港で荷物を渡されてからが泣き

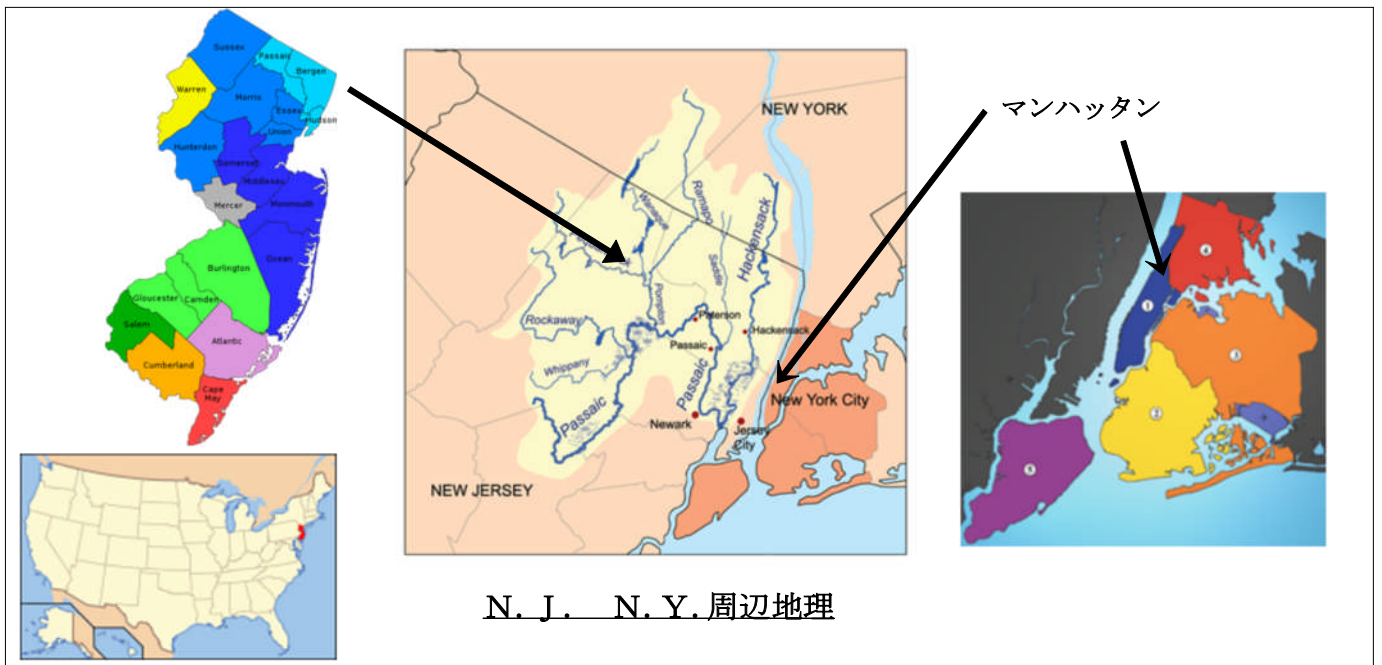
たいくらくたいへんでした。案の定、NY JFK空港での入国時には、別室に案内され、根堀葉堀聞かれて、サンプル機を没収されそうになりましたが、入国手続きができない客がいるのを心配した日本航空のスタッフが助けてくれて、サンプル



Mount. Hood (3,429m)



Columbia River



機はシャープの乙仲業者の南海エクスプレスさんに通関手続きをしてもらったことで無事身軽になり入国することができました。この時ほど、ツルのマークが有り難く見えたことはありません。

こんな珍道中を繰り返して海外販社を出入りしているうちに、アトランタ五輪が開催された1996年春、米国シャープ(SEC)のNJ本社情報システム本部商品企画部に駐在することになりました。本人は、何も知らずに念願の米国駐在と喜んで行ったのですが、実は、この頃、海外販社はたいへん厳しい状況にあり、特にシャープ最大の海外売上を担う米国販社の建て直しが急務と、日本本社から強烈なプレッシャーに晒されていたのです。何故なら、長男坊の米国で取り上げられたモデルが次男坊の欧州、その他の海外現地販売会社に導入されていくのが通例で、影響力が非常に大きかったからです。

着任した早々から、後に私の直属の上司となる高橋さん(現在SEC会長)が日本から長期出張で来られて一緒に米国の複写機ディーラーを回ることになり、前任者との引継ぎも全くなく、オフィスに戻ると過去の書類も全て廃棄されており、全くの新規開業状態でのスタートでした。

この時は、アナログコピーからデジタルコピー、コピー単機能機から複合機(コピー、ファックス、プリンターのマルチファンクション機)への移行を迫られ、日本と米国向けモデルのラインナップ、商品仕様と価格の交渉をしながら、毎月、日本より重役や本部長、

事業部長らが来られるため報告書の作成と接待に追われ、深夜までオフィスを離れることができない毎日でした。

当時は、まだ韓国勢は台頭しておらず、米国勢と日本同業他社が競争相手でしたが、日本以上に流通ルートの寡占化が進み、まさにデジタル社会でアカウントのSKUが取れるか、取れないか、つまり1かゼロのどちらかの世界で、しかもこの座席は、事務機量販では全米でも3つしかない厳しい椅子取りゲーム、加えて量販ルートの低価格とその価格下落の激しさは強烈で、日本側の理解をなかなか得られず苦しんだことが、今は懐かしく思います。

当時、デジタルをアピールできる新しい商品を考え出すことが大命題で、日本からも、また自分が籍を置くSECからも強く要求され、私が苦しみながら思いついたデジタル機能を搭載した商品がアカウントに認められ、7年ぶりの大量受注を獲得したときの喜びは今も忘れることができません。

このような海外体験のお陰か、退職しても、今も当時の上司や仲間との付き合いが続いているのは、私の貴重な財産とも言えます。

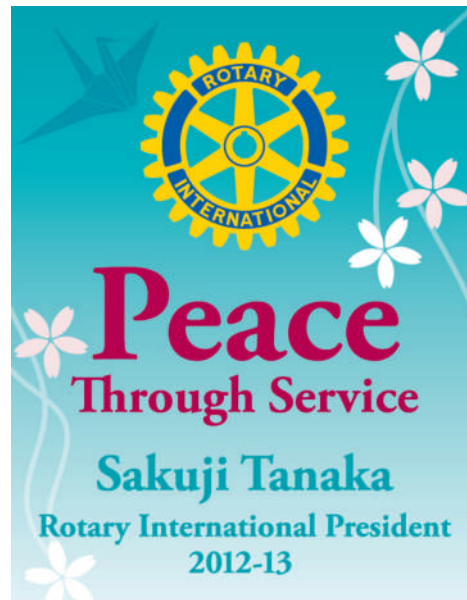
シャープでの勤務経験が、私の心の支えとなり、何かあっても、あの時に比べれば自分を励ますことができ、今は懐かしく思うと共に、また私を鍛え、育ててくれたシャープには感謝している次第です。

一方、二人の子供には、私の夢の犠牲となり、アメリカにまで連れて行き、言葉も通じないのに現地の学校に放り込まれ、悪いことをしたかなと思っています。

でも、いつの日か、この海外体験が、彼らの貴重な肥やしとなることを願っております。そして、いつの日か仕事抜きで、家内とゆっくりと海外をエンジョイしたいというのが、現在の私の夢です。



N J からみたマンハッタンの夜景



平和という概念は、人によって、文化によって異なります。心の平安や家族の幸せ、満足感を指す場合もあるでしょうし、人間の基本的ニーズが満たされた安全な状態を指すこともあるでしょう。平和をどのように定義するにせよ、それは奉仕を通じて達成できる目標です。

ロータリーにおいて、奉仕とは、片手間にすることでも、たまに取り組んでみることでありません。奉仕とは生き方です。それは、思いやりの心を重んじることであり、調和へといたる道です。生活のあらゆる場面で奉仕を実践することによって、私たちは分かち合いの精神を育み、友好を見出し、平和の道を選ぶことができます。

2012-13ロータリー年度には、平和が私たちの焦点、そして目標となり、ロータリアンの皆さまには、「奉仕を通じて平和を」もたすため、積極的に活動していただくようお願いいたします。平和に向けた努力は、すべての人、家族、クラブ、地区、地域、そして国から始まると思います。

ロータリーの中核にあるのは、奉仕の力に対する信念です。奉仕を優先すれば、自分よりも他者のニーズが優先され、考え方ががらりと変わり、人々が抱える困難に対し、深い同情の心が生まれます。人々を助けよう、人々がもっと幸せになるよう自分にできることをしよう、という気持ちがさらに湧き上がります。自分の時間やリソースを惜しみなく与え、新しい考え方に對してもさらに心を開くことができます。それは、他人を変えようとするのではなく、すべての人やものが自分に何かを教えてくれること、毎日、新たな成長の機会が与えられることを認識することになります。

奉仕を通じて、私たちは、違いに対して寛容になり、周囲の人に対して感謝の気持ちを抱くようになります。感謝の気持ちを持つれば、もっと相手を理解でき、あらゆる人の中に善を見出せるようになります。こうした理解を深めることで、他者への尊重の念が高まり、互いに対する尊重の念があれば、人々は平和に暮らすことができると思います。

ロータリーの奉仕は、さまざまなかたちで平和を助長します。私たちは、クラブと地区で、世界中の地域社会に健康、安全、人間の尊厳をもたらすために活動し、競争よりも協力、自分の儲けよりも公益に価値を置こうという気持ちが、私たち一人ひとりの中に生まれます。自分を見つめることを通じて、私たちは、完璧な人間などいないということ、そして誰もが人から何かを学べるということを理解します。

ロータリー独自の標語、「超我の奉仕」は、奉仕の最高のかたちを表しています。このような奉仕こそ、私たちが歩むべき道であると、私は信じています。この道はロータリアンが築いた道であり、世界のすべての人々が歩むことのできる道です。さらに深い思いやり、満足、寛容、理解へといたる道です。「奉仕を通じて平和を」を標榜するなら、私たちは、自分たち、そして世界のために、さらなる平和へ向けて邁進していくことができるでしょう。

田中作次

2012-13年度国際ロータリー会長
田中 作次

